



第6巻第6号
通巻第66号



「元気してたか？
天国に行けるようにちゃんと拝むんだよ。」

松本と話をしよう
ペンパンが物申す。

発行所 東京都杉並区成田東4丁目3番44号 〒166-0015からす新聞本社
からすホームページ <http://www.go-karasu.com/> 投書・お問い合わせのE-mail : colors@go-karasu.com

井の頭池をアヴェックでぶかぶかとのんびりさまようポートであるにせよ、大海原をずつしりと進む巨大船舶であるにせよ、フネというものには頭となるものが必要なようである。考えてみれば、水上には道路や線路があるわけではなく、船頭の果たす役割が大きいのは当然のこと。陸の上であれば、悪いけれどオイラはここで降りさせてもらいますよ、というようなことも可能だけれど、船の上ではそうはいかない。食べ物や飲み物だつて、積載しているものが尽きてしまえば、次に陸地に辿り着くまではどうにもなるものではない。運命共同体のレトリックとして引かれることが多いのも尤もなことである。例えば、国という船における首相という船頭、女子バレー日本代表における柳本監督、一級建築士事務所における所長様、などなど。船の大小はあるにせよ、その行く末は船長の手腕にかかっていくはない。

の催促に忙しい。頻りに私の足元をうるつき回り、拳句には齧り付いてくる始末。煩わしいので、思考や作業を中断して、相手をせざるを得ず。ただでさえ集中力の途切れ勝ちなこの鬱陶しい季節、あれもこれもが遅延しているところ、この猫のせいで……などと、不平のようについて、その実、我が能力に対する言い訳のような憤懣が駆け巡る。食事の中でぶ公を真上から眺めると、それは猫というよりはゴマフアザラシに近い。アザラシであれば、船の行方が気に入らなければ、どぼんと海に飛び込んで、我が道を行けば済むのだなあ、と。

私たちはとんでもない船頭の操る日本という船に乗って、あれよあれよという間にあらぬ方向に連れていかれようとしている。私の記憶にある限り、日本の代々の舵取りは、どいつもこいつもろくなものではなかったけれど、今度の奴は度を超えている。国民は大いに騙され、大いに裏切られ、大いに利用され、大い

(最終面に続く)

今日の紙面から

- 一面 オーラ面
松本と話をしようペンパン
- 二面 国際アート面
ロンドンレポート
- 四・五面 からすライフライナー
CD『ザ・ヘッドフォン・マスターピース』
本 『日の名残り』
映画『パッション』
- 七面 建築面
幼稚園スペース園庭改造計画



からす新聞は××××が母体となつて、世界に文化と芸術を発信すべく発行しています。
誰でも自由に参加できます(無茶じゃない範囲で)。



(二面から続く)

さてみなさん。父親が小学生の娘に投げかけた言葉です。どういふ場面でしょう？

自分ならどう答えるだろう。しばらく、父親は出張で家を空けてた。そしてその間に娘が飼っていた小鳥を不注意で死なせてしまった。それで慰めて言っているんだと。

ではない。これは例の佐世保での小学生刺殺事件で事件後初めて面接を許された父親の加害者である娘に対する第一声なのである。

ちなみに被害者の父親のメディアへのそれは、今は混乱していてなんと言っているのか分かりません」であった。この落差は一体何なのか？と同時にもしみなさんが万が一、自分の娘が

このような事件の加害者となつたらどのような言葉を娘に対して発するだろうか？

「バカやろう。なんてことしたんだ。人の命を奪つたんだから、自分の命をもって償うしかないんだよ。だから最低、お前と、そしてお前をそのように育てたオレはその子の墓の前に行つて自らの命を断たなくてはいけない。わかつたな」

これは結婚さえもしていない自分が、究極なまでにリアルに自分をその状況に置いたならば、口にするだろうと予測する言葉である。いや、わからない。ただ、娘の目を見つめ、ただただ涙が流れるだけかもしれない。が、



しかし、実際に加害者の父親が吐いたような言葉はどう考えて出てきそうもない。いや出てこない。

無いものに対して人は飢える。血がないなら血に飢える。

この加害者の父親にはまるで血が感じられない。どこまでも上の空、安いドラマのセリフ、コンビニの容器。その父親の精液から誕生し、命名され、抱かれ十二才にまで成長し、初潮を迎えた女の子。血が足りるわけがない。

ちなみにこの女の子のホームページの文字は全て赤であった。

あなたの子どもは大丈夫？

あなたの平穏な生活を脅かすストーカーを本場米国で培った最新の技術と装備を駆使して退治します。
あなた一人で悩まないでください。

ストーカー バスター

produced by

P.D.Agency

tora@pda.co.jp

4-3-49-1, Suginami-ku,

Tokyo 166-0015, JAPAN

voice : +81-5347-9063

facsimile : +81-5347-9064

London Report

お元気ですか

今まで何回、親戚や友達のお葬式に出たことがあるだろうか。そんな事を考えた。週末のバーで飲んでいる時にお母さんから電話が有り、ばあちゃんが死んだとの知らせを受けた。もうお葬式も済ませた後での報告で、別に今すぐ帰ってこいとかそういう話ではなかった。ばあ様はもう百歳近くであったし、そんなに驚く事でもないのだが、何だかやつぱり唐突なように感じられた。音楽がうるさくて話が聞こえないために移動した階段の上で、時間の差と共にすく日本までの距離を感じた。不謹慎なように聞こえるかもしれないが、本音を言うと、またお葬式に出られなかったと言う思いが強かった。

僕は悪い事も良い事も、どちらであってその出来事の大ささに応じて、凄いと思ってしまうところがある。普段は会わないような親戚一同が勢ぞろいする、お葬式というイベントに自分が出られないというのが極めて辛いことであるのは正直な気持ちなのだ。今となつては年に数回会うか会わないかの親戚つきあいの中でも、やつぱりその人達を身内だと感じるのは、きつと親戚から聞いた彼らのエピソードや、親戚から聞いた自分の親達のエピソードが自分がその人に関わった記憶に結びつき、記憶の家系図の様なものを肌で感じていくせいだろう。自分の父親や母親がどんな子供で、じいちゃんやばあちゃんはどうな両親だったのだろうか。そんな事を考えながら血の繋がりに無しでは存在しえなかった自分というものを改めて確認しているような気がする。何となく、ばあちゃんが一人でお母んや他の兄弟達を引き連れて満州から帰って来たと言つ話を思い出したりした。未っ子の母は、ばあちゃんにおぶられていたに違いない。葬式というものはそんな事を思い出したり、考えたりする機会を与えてくれるものなのかもしれない。

「皿は割れるものだ」母はその昔、看護婦だったからか、僕は小さい頃から死というものに怯えていた反動からか、二人の間にはそんな共通した考えがある。生きている人が死ぬのはしょうがないことなのだ。僕は悪い事、悲しい事ほど事実として受け入れようとする力が働くので、冷静にそれを受け入れてしまつところがある。それでも、やはり何らかの区切りが必要なのだ。知らせを受けたからと言って、はいわかりました」と完全に消化しきれぬものではない。自分の為なのか、家族の為なのか、故人の為なのか。僕がその場所にいななく、何も出来ずに海の向こうで関係のない生活をしているという事実が、辛いことのように思えた。それがまるで、何も僕には関係のないことのように映るのが嫌だった。生きている人が死ぬのはしょうがないことなのだ。それでも、何か出来ないかと思ってしまう。いや、いつでも誰にでも死んで欲しくはないのだ、でも永久に生きることなど期待しない。それならばせめて最後に挨拶をする機会ぐらいはあつてもいいではないか。一大行事であり、記憶を共有する機会であり、自分とその人の存在を確認する機会である葬式に、僕はその区切りを求めているのかもしれない。

僕はこれまでに三回行くはずだった葬式に出席していないことになる。海外に住むということとは、家族や友人と離れて暮らすということとはこういう事なのかと何となく感じた。嬉しい時や楽しい時にその場にいられないことよりも、悲しい時や苦しい時にその場にいられないことの方が辛いことを知った。バス停で学校へ行くバスを待ちながらふと空を見上げる。天気がいい。僕に何が出来るだろうかと考えた。やはり大した事は出来ないらしい。何もできる事が無いので、一つ物を作ることにした。ばあちゃんの人生はどんな人生だったのだろうか。そんな事を思いながら金槌を振るう。

(神山)



The Headphone Masterpiece

Cody Chesnutt

Ready Set Go、2002年、TPLP345CD



"He is the man"と言いながら、嬉しそうにピーターがCDをラジカセに入れた。それが始めてCodyを耳にした瞬間。それから仕事をしながら流れる音楽を聴いていると、何となく引き込まれてしまう。その次の瞬間にはもう「こいつは凄い」と感動していた。そしてその数日後にインターネットで買ったCDが家に届いた。急いで包みを開ける。何て自由で、楽しいCDなんだろう。きっとこいつは音楽が大好きに違いない。そんな事が向こうから伝わってくるような気がする。ただそのCDが聞きたくて夜更けまで起きていた。

その後も聞くたびにそれは色あせずに輝いてくれる。シンプルでラフなサウンド、品が悪いながらも素直な歌詞。「おい、おい、おい」と思わず嬉しくなってしまうのだ。"This is outrageous, fantastic and beautiful!!"

(神山)



L!b Films

兎に角、痛い。イエス・キリストの復活直前を描いた問題作。公開前から、ローマ法王がコメントしたり、ブッシュ大統領が観てみたいとコメントした等々、欧米では話題騒然だったようだ。物語は、最後の晩餐の終りから、ユダの裏切りでローマ帝国に捕縛され、拷問され、イバラの冠をうめられ、ゴルゴタの丘で十字架刑に処されるまでを伝説の通り、リアルに再現したとの事。忠実に再現したとされる所が話題を呼んだらしい。なんでもこれを見た米国人が復活を信じて自殺までしたそうだ。

しかし、キリスト教に馴染みの無い日本人の自分としては、キリストの復活自体がいかかわしい話な訳だが、地球上の何億人以上もの人間がこれを真剣に信じている事と、それらの人間が地球の運命を握っていると思うと、空恐ろしさを感じてしまうのは自分だけだろうか。

兎に角、二千年以上前の出来事なので事実かどうかは誰にも解らない・・・。

(小張寅造)

パッション

(The Passion of the Christ)

主演：ジム・カヴィーゼル

監督：メル・ギブソン

2004年米国



The Remains of the Day

Kazuo Ishiguro

faber and faber、1989、ISBN 0-571-20073-7

日の名残り

カズオ・イシグロ (土屋政雄訳)

ハヤカワ文庫、2001年、ISBN 4151200037

二つの大戦を経験した20世紀前半、英国紳士の館ダーリントン・ホールは華やかな外交の舞台であった。しかし戦後、ヒトラーを過小評価して惨禍を招いたとしてその名誉は貶められ、ダーリントン卿は失意のまま世を去った。実直に主に仕え続けた執事ステーブンスはいま、館を買い取った金持ちアメリカ人ビジネスマンに仕える。彼は勤められるまま主のフォードを駆って6日間の追想の旅に出る。

* * *

1923年3月。第1次大戦後、莫大な賠償を強いられたドイツは不況に喘ぎ、いま再びヨーロッパの安定に暗い影が忍び寄っていた。そんな中、ステーブンスは世界の趨勢を左右する重要な会合の世話をすることに。平和を希求するダーリントン卿がフランス、ドイツ、そしてアメリカの要人たちに声を掛け、実現したものだ。

ドイツへの多大な賠償請求を譲る気配のないフランスのデュボン。そこをなんとか、というのがダーリントン卿。毛色が違ったのがアメリカの外交官リス。自国第一で裏で根回しし、駆け引きし、こっそりデュボンの部屋へ出掛けていって、イギリスの悪口を言ったりする。それを偶然聞いてしまったステーブンスは、当然主人に報告するのだった。

結局リスのやり方は裏目に出る。フランスはイギリスの望みを受け入れるとの方向転換を示唆。正々堂々やらないので、ヨーロッパ貴族たちには受け入れがたかったのだ。そして、最終日の晩餐。デュボンから名指しでその「外交術」を非難されたリスが演説をぶつ。矛先はダーリントン卿だ。

A classic gentleman. Decent, honest, well-meaning. But his lordship is an amateur.

「古めかしい紳士殿。品格、誠実、善意。しかし閣下はアマチュアなのです。

International affairs today are no longer for gentlemen amateurs.

「国際情勢は今日、もはやアマチュアの紳士方のためのものではないのです。

You here in Europe need professionals to run your affairs.

「ここヨーロッパでは、あなた方の問題を扱うプロフェッショナルが必要なのです」



ダーリントン卿は怒っている。

What you describe as "amateurism", sir, is what

I think most of us here still prefer to call "honour".

「あなたが“アマチュアリズム”と表現されるのは、閣下、私が思うに、ここにいる私どものほとんどが好んで“名誉”と呼ぶものなのです」

* * *

nobless oblige という言葉がある。「身分ある者が負う相応の義務」を意味する。「品格、誠実、善意」を兼ね備えたダーリントン卿をはじめとする貴族たちは、自分たちこそが世界を救う義務を負う者と強烈に自覚していた。大衆は愚かだとして民主主義を認めなかったのである。でも大衆を、そしてヒトラーを見くびって大失敗。かくして第二次大戦後、世界は民主主義でやり直し。少数ながら生き残った貴族外交は脇役に回り、どこの国でも外交は「プロ」の仕事になった。

その後、少なくとも第三次大戦の勃発は食い止められているということは、いちおうプロ外交の成果ということか。それとも我々はすでに「対テロ戦争」という名の世界大戦に巻き込まれているのか。プロじゃあ駄目なのか。ときには「品格、誠実、善意」そして「名誉」の出番もあるのか。プロ外交からノブレス・オブリージュ外交に鞍替えした皇太子妃の順番はいつ回ってくるのか。

* * *

ダーリントン卿は架空だが、登場する要人にはチャーチルやドイツ大使リッペントロップなど実在の人物もいる。物語はフィクションでありながら、史実には忠実だ。

本当のところ、物語の軸はステーブンスの執事としての矜持と、かつての同僚の女性とのほのかなロマンスである。1954年長崎生まれで5歳からイギリスに住むカズオ・イシグロの代表作。映画化もされている。(望月)

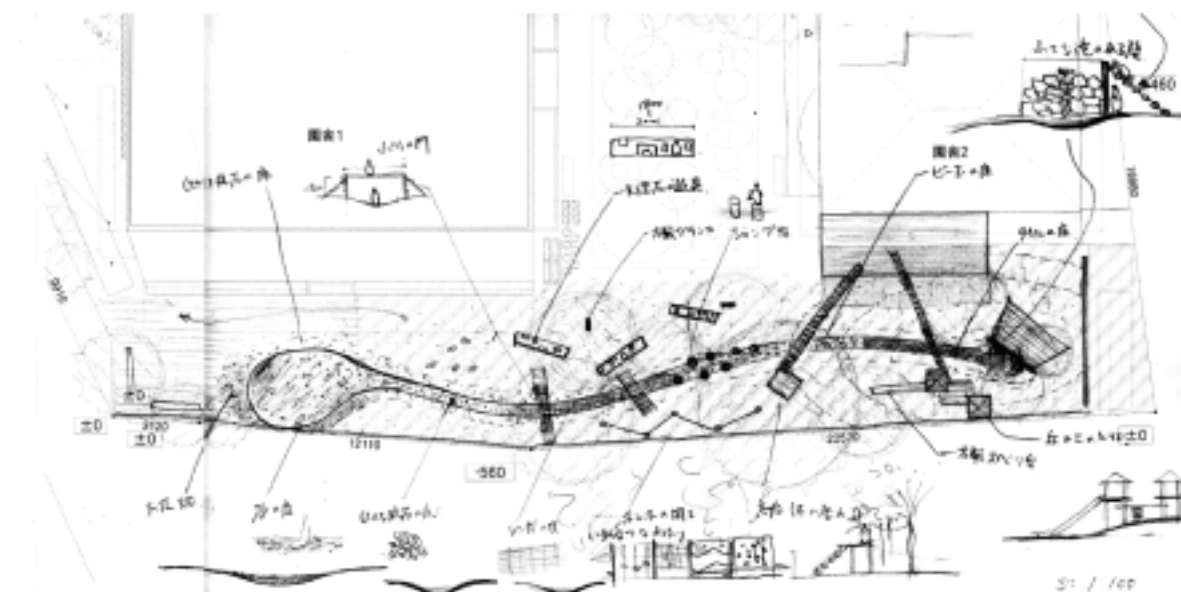


幼稚園スペース園庭改造計画

kinder garten garden rejuvenation project



以下は創建若手建築家の卵が計画した幼稚園スペース園庭改修案。
本当の計画は次回明らかに。請う御期待。



子供たちが本当の自然に触られる。
五感で自然を感じられるリニアなピオトープ。
自分だけの場所をつくれるように、敷地の中に木や石の遊具を点在させている。
小川の底は色々な素材で構成されており、子供達は様々な感触や情景を楽しむ。

アテネ五輪記念

原点シミュレーション復活

街角で外人さんから道などを聞かれたとき、第一声が「スママセン」ど Excuse meでは、こちらの気分もずいぶん違うものだ。だから自分も、英語を母国語としない国で何の遠慮もなしに英語をしゃべったりするのはやめようと思うのである。そのためにまず、各国のコミュニケーションの原点と言える表現ぐらいは学んでおかねばなるまい。

表記の仕方：ギリシャ語

右表を元に英字に変換(実際の発音)

ロンドンからアテネの空港に着いたのはすでに夜の8時過ぎ。とにかく都心へ向かうバスに乗り込む。ターミナルでも何でもなしに雑然とした広場でバスを下ろされたときにはもう10時近かった。ちらかってんなあ。紙っばいゴミがあちこちに俵っている。何はともあれ宿探した。

時間も時間。まず目に入った安そうなホテルに直行。受付らしき場所には実にやる気のなさそうなおばさんが一人。

“ ”
Kalispera(カリスペラ)
「こ、ん、ば、ん、は」

“ Hello. ”

ハローってあなた、おれのギリシャ語魂受け止めてくれよ。お願いしますよ。
「こんばんは」
μ 「おはよう/こんにちは」
Kalimera(カリメラ)



寝床が確保できるとかなりほっとする。そうすると、腹が減っていたことに気づく。幸い営業していたホテル近くの"RESTAURANT"に入る。

旅が続けば野菜が不足するもの。サラダが食べたい。観光立国ギリシャで英語表記は必須だからメニューにだってもちろん英語が添えられているが、もちろん、敢えて私はそれを見ない方針である。("RESTAURANT"は見えてしまったので仕方がない。)

TARAMO SALATA(タラモ サラタ)

はサラダにちがいないので、敢えて確認せず注文。それが日本でもそれなりに知られている料理だと知ったのは後のこと。「こんなピンクの冷製スープみたいなのがサラダであるはずがない」。そこで皿を指さし、勇気を出してギリシャ語で質問した。

“ ? ”
「サラダなの？」

“ ”
Naí(ネ)
「はい」 (最終面に続く)

ギリシャ語読み方入門

μ

アルファベットである。アルファ、ベータ、ガンマぐらまでは結構知られているし、数学記号でお馴染のものもあるだろう。

英語のアルファベットも逆ればこのギリシャ式だから、多くの文字が対応している(アルファベットの語源は「アルファ+ベータ」である)。がしかし、時を経てその対応の仕方もずいぶんと変わった。たとえば β はbの原形だが、現代のギリシャ人はこれを「ブ」ではなく「ヴ」と発音する。つまり v なのである。

というわけで、以下、私が発音本位でかなり雑に簡略化した希英対応表である。漏れているところもかなりあるが、全部やると面倒なことになるので、お許しを。触りということで。

ギリシャ語	英語
アルファ	A
ベータ	V
ガンマ	G / I
デルタ	D
エプシロン	E
ゼータ	Z
イータ	I
シータ	th
イオタ	I
カッパ	K
ラムダ	L
ミュー	μ M
ニュー	N
クサイ	ks(クス)
オミクロン	O
パイ	P
ロー	R
シグマ	S / Z
タウ	T
ユブシロン	U / Y
ファイ	F, ph
カイ	H / kh, ch(ク)
ブサイ	p(プス)
オメガ	Ω
二重母音	
は「エフ」あるいは「エヴ」	

では問題。これをどう読むか。

表に従って英語に変換すれば、Ellinik。エリニク？ ほぼ正解。正確には「エリニキ」に近い。ギリシャの正式国名だ。ギリシャ語と英語の橋渡しの役目を担ったラテン語では Elliniki と書く。英語の「Greece」や「ギリシャ」は、ラテン語での通称 Graecia(グラエキア)がそれぞれの地で訛ったものようだ。

これは「ありがとう」。同じように変換すると、Eukharisto で「エウハリスト」？ 否。 と続く「エフ」なので正解は「エフハリスト」。

に大いに大いに……と、気がつけば、とんでもない島に拉致監禁され、まともな保障は一つ与えられぬのに、戦争に加担させられるばかり……そんな恐ろしい光景が目に見えは私だけだろうか……。

（一面から続く）

白日夢から現実に回帰すると、我が足元ではでぶ公が空の皿を前にして、にやあにやあにやあにやあと更なる催促。仕方がないので、追加する。彼女は毎日暴れ回っているだけあって、両腿が非常に発達している。大半が白いということもあり、耳の短い兎のように見える。同じような図体でありながら、兎は真ん丸い目玉をして、一日中口をもぐもぐしているばかり。うるさくつきまったりはし

(七面から続く)

“ ? ! ”

イギリス人の多くが「No.」を「ネウ」と発音するが、それを散々聞かされた後だったのだ。初めての土地で私がウエイターの「はい」「いいえ」と瞬間思い込んでしまったのも無理はない。

「はい」
「いいえ」
Oh(オヒ)

(次号につづく / 望月)



bar&kitchen kanna



店内のバカふたり。
じよじ伊東左)
情事もちづき右)

ない、純朴な動物なのだろうなあ……いや、待てよ、かちかち山では、狡知に長けた兎が小悪党の狸を必要以上に成敗するのではなかったか。背中に大火傷をおわせた上、そこに辛子をすりこむ。酷い話だ。おまけに最後には泥の船に乗せて、結局のところ、狸は溺死してしまふ。残酷な話である。考えてみれば、この国も、恐ろしい世界に辿り着く前に、沈んでしまふ泥の船の如きものではないのか。ふと、そう思う。辿り着く先を心配している場合ではないのではないのか。と。じわじわと泥が溶けて、ゆっくと形を失い、いずれ、海の藻屑と消えてゆく様を想像してほしい。どうですか。少しずつ少しずつ崩壊していく図を前にして、あなたは何を思うだろうか。

この、今、あなたの眼前に、あるいは、足下に広がる現実を変えられないものなのだろうか。あなたが起こす行動は世界を変えるには至らないのだろうか。そうかもしれない。所詮、私たちは風に吹かれてゆらめく非力な草に過ぎないのだ。けれども、考える草である……というのはパスカル。いや、そうではなく、非力ではあるけれども行動する草である、と私は思いたい。この船が今にも沈もうとしていても、諦めることなく、できることはしようではないか……と言うそばから、沈んで……しまっ……ああ……さよなら……ごきげんよう……

(全木)



Ken-ichi Shinozaki,
architect

Voice : +81-3-3220-0644
Facsimile : +81-3-3220-0640;
e-mail: geta-s@t3.rim.or.jp
篠崎健一アトリエ

編集後記
からす新聞第六巻第六号、通巻第六号、無事、発刊できました。新聞に限らず、これからも新企画目白押しなので、みなさんの御協力をお願いいたします。御意見・御要望をぜひお寄せ下さい。次号発刊予定日は二〇〇四年七月二十五日です。編集協力者、特派員記者、及び、投稿を熱烈にお待ちしております。

1クラス4人までの少人数制学習塾

ファミマ

中野区本町2-50-12 ドエル中野201号
03-3379-1451

ファミマ

おうめかいどう

中野板上駅

ファミマ